

第28回 伝統を継承する ～ 体育祭での応援 ～

本来ならば5月に実施する予定だった体育祭ですが、新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響で、10月13日に、応援合戦のみの実施となりました。今回は、優勝した赤組の応援団長、2年生の高橋さんに話を伺いました。

応援団長をやろうと思ったきっかけは何ですか。

1年生の時に、同じ赤組の応援団で優勝したのですが、その時の先輩たちがかっこいいなあと思っていたので、今回応援団長に手を挙げました。

実は、昨年度1年間はニュージーランドに留学をしていて4月に日本に戻ってきました。4月、5月の臨時休業中は、新しい学年、クラスに馴染めるかどうか心配でした。おそらく5月に体育祭を実施していたら、応援団長には立候補していなかったと思います。学校が再開して新しいクラスにも迎え入れてもらったので、応援団長をやろうと思いました。

体育祭当日を迎えるまでの準備で、大変だったことは何ですか。

通常は1ヶ月の準備期間がありますが、今回は2週間という短い期間だったことです。私が1年生の時は、土・日の練習をする中で、先輩たちといろいろな話をしたりして、仲良くなることがあったのですが、今年はそれもできませんでしたから、先輩たちの厳しさだけしか伝わらないのではないかと心配しました。

準備段階での感染症防止対策のために、場所や時間、人数も限られている中で工夫したことはありますか。

1年生を指導するにあたって、2年生の応援団員12名で話し合いをしました。短い期間ではありますが、最初は挨拶など厳しめに始まって、最後は皆で楽しんでもらえるようにと考えていました。練習場所や人数が限られているので全体練習がなかなかできず、何か所かに分かれての練習、しかも室内では声出しがで



きなかつたのですが、団員で協力して進めました。1年生がとてもがんばってくれたと思います。前日の全体練習ではあまりうまくいかなかったのですが、最後は皆楽しんでやろうと伝えたところ、緊張も解けて最終的にいい演技につながったのではないかなと思います。

1年生の時の経験が生きたのでしょうか。

1年生の時、私は列の真ん中あたりだったのですが、拍子に対して会場から大きな歓声があがったり、皆が楽しそうに演技しているのを見て、自分自身、本当に楽しかったとい

う思い出があるので、今年の1年生にも思いっきり楽しんでほしいという思いがありました。

伝統の継承ができたのではないかと思います。体育祭を終えて今思うことはありますか。

終わった後、1年生も楽しかったと言ってくれました。例年と違う状況の中で、2週間取り組んだ結果として、優勝をいただきましたが、それがなかったとしても、応援団長として達成感を得ることができたと思います。これからの自信につながったと思います。

ところで、高橋さんは、1年生を終えて2年生になる4月から留学をしていますね。

はい、ニュージーランドの北島にあるパーマストンノースという町があるのですが、このハイスクールに1年間留学をしました。

留学をしようと思ったきっかけは何ですか。

小学4年生の頃に、YouTubeで「ハカ」を見てカッコいいと思っていました。中学時代にラグビーが盛り上がりを見せ、改めて「ハカ」の映像を見たりしていました。その中で、ある学校の生徒が交通事故で亡くなってしまった際に全校生徒で行った「追悼のハカ」を目にしました。それがパーマストンノースの高校でした。その後、その高校が留学生を受け入れていることを知り、行ってみようと思いました。英語力には不安があったのですが、マオリの文化を学ぶことを目標に考えていましたし、高校時代にしか学べないこともあると思い、留学を決めました。

実際に留学してどうでしたか。

1年間、クラスに混ざって高校生活を送る中で貴重な経験を得ることができました。ホストファミリーや、友人にも恵まれたと思います。「ハカ」の授業もとっていたので、年間を通してマオリの文化を学びました。パーマストンノースの人たちが集まる集会にも参加しましたし、本場の舞台上で「ハカ」を踊る経験もし、地元の人たちには褒めていただきました。自分が小学生の頃に感じたあこがれのようなものを実現できて、充実した時間を過ごすことができました。

留学というと、言葉の問題、経済的なことなど不安なことも多いと思いますが、自分が何かを得たい、学びたいという意味が重要だと思います。

帰国し復帰するタイミングで、コロナ禍のために臨時休業となってしまう、その間不安だったのではないですか。

この間、日本での高校生活を始めるにあたって落ち着いて準備する時間を持つことができました。新しい学年、新しいクラスでの人間関係づくりについては、小学生の頃、転校

を何回か経験をし、いろいろな人と触れ合う経験をしていましたし、ニュージーランドでも友人はすぐにできたので、不安に感じることはありませんでした。

将来のことについて聞かせてもらえますか。

まずは大学に行って就職をしてと考えています。その後、経験を積んで、最終的には自分のやりたいことをやっていきたいと思います。

マオリの人たちは、家族をとっても大切にします。実は留学中に身内に不幸があり、一時帰国しました。その後、ニュージーランドに戻ったときに、先生や同級生たちが自分のことのように思ってくれて、私のために全力で「ハカ」をしてくれました。「ハカ」は相手への敬意を示す意味もあり、自分は一人ではないんだなと感ずることができました。

「ハカ」は単なるパフォーマンスではなく、相手に対するメッセージがあり、意味があります。今回、応援団長として緊張する場面では、私の好きなマオリの歌「何でも挑戦しろ」という意味の歌ですが、それを思い浮かべていました。マオリの人たちとのつながりは今でもあるので、今すぐ何かをするということではありませんが、いずれ何かの形で関わっていきたいと思います。自分が学んだことを恩返しできればと思っています。

1年間マオリの文化の中で生活できたことは宝物ですね。これからの活躍を期待しています。どうもありがとうございました。